

平成30年度（第Ⅱ期）教育文化学部国際交流等学術研究交流基金の助成事業

実施報告書

平成30年11月2日

所属・職名：地域文化学科国際文化講座・教授  
氏 名：長谷川 章

### ○事業概要

地域文化学科では旧国際言語文化課程時代から引き続き、2年に1度の頻度で1週間程度のロシア研修旅行を実施してきた。本年も9月にサンクトペテルブルク、モスクワを8日間訪問する研修旅行を企画し、学科3名の学生が参加することになった。4月に第1回の事前研修会を開催し、その後数回にわたってゼミ形式で、各自が「ペテルブルクの成り立ち」「エルミタージュ美術館の歴史」「モスクワの成り立ち」のテーマを選び、文献調査の結果を発表した。

9月の研修旅行では、「ペテルブルクの成り立ち」に関連してペトロパヴロフスク要塞、ネフスキー通り、「エルミタージュ美術館の歴史」では同美術館、「モスクワの成り立ち」ではクレムリン内の博物館、教会などを見学し、事前の文献調査の結果を現場で確認、検証する作業を行なった。

帰国後は、本実施報告書とは別に、各自の研究成果をとりまとめて、研修旅行報告集を発行する予定でいる。

### ○事業の実施により期待できる効果と意義

事前の調査研究を現地で確認、検証できたことは、歴史や地理・文化論的な側面で様々な見聞を深め、現地でしか経験できない貴重な機会となった。また、日頃ロシア語の勉強に務めている学生にとって、現地でロシア語の会話能力を活用するという体験ができた点でも、得たものは大きい。そして何よりも、各自の研究テーマに限らず、ロシアが実際にどのような社会であるのかを見ることができたのがもっとも大きな成果だったと言える。

帰国後、旅行参加者は、ロシア語、ロシア文化関連の授業を引き続き熱心に受講し続けているが、今後の授業、ゼミ、卒業研究などで、自己の体験を学習に役立て、よりモチベーションを高めて勉学の成果をあげるものと大いに期待できる。

### ○事業期間全般にわたる感想と課題

今回の研修旅行参加学生3名のうち、2名は初めての海外旅行であり、残り1名も海外旅行は幼少期に1度きりであるため、非常に貴重な機会となったと思う。また、学生の見識を深めることができただけでなく、2年経っただけで、日常生活の様々な改善が見られる現代ロシアの様子を観察できたことで、教員本人にとっても得難い体験であった。課題としては、現地の人たちとの交流をもっと深める機会を設けることが挙げられるが、これについては、2年後に研修旅行を

計画する際に、十分考慮しておきたい。

なお、今回の研修旅行は、国際交流等学術研究交流基金の支援を受けて初めて成立したものであり、その点で寄付者の方に対しては深く感謝を申し上げたい。また、この制度を活用して、できるだけ多くの学生が自己の見聞を海外で深める機会を増やしていくことを期待したい。

（以下は参加学生の感想）

1517501 地域文化学科地域社会コース2年 相原安杜

私は、ロシア研修旅行前に「モスクワの成り立ち」というテーマのもと、主にモスクワの歴史、街の概要、建築について調査した。事前にモスクワについて調べた上で、実際にロシアへ行き感じたことは、想像以上に街並みが日本とは異なるものであることだ。研修旅行では、ロシアの様々な建造物を見学する機会があったが、特にクレムリンとアルバート通りが印象的だった。クレムリンは、モスクワだけでなくロシアの発展にも関わりのある場所で、実際に訪れることで、モスクワやロシアの歴史を深く感じる事ができた。また、ガイドの方と武器庫をまわり、歴代の皇帝が収集した王冠や馬車などを目にしたときはとても感動した。事前学習で、建築についても調査していたが、特にクレムリンはイタリア建築とロシア建築の要素が融合した建築様式が強く表れていることを学ぶ事ができた。アルバート通りは、ソ連時代からある建物と現代風のおしゃれな建物が融合し、たくさんの観光客が訪れる場所になっていた。アルバート通りにある店に入ると、店員が複数の言語を話しており、観光客への対応を学ぶ事ができた。テーマ以外にも、サンクトペテルブルグという都市を訪れる事ができた点がとても大切だと思った。サンクトペテルブルグとモスクワは、ロシアの中にある大都市であることには変わらないが、街や人の雰囲気やセキュリティの厳しさなど異なる部分が多く、2つの都市を比較する事ができて良かった。

ロシア研修旅行では、日本とは違うロシアの建築や街の雰囲気などを実際に感じたり、現地の人たちとロシア語を用いた会話をしたりと、海外研修ならではの経験ができた。これらの経験を、現在取り組んでいるロシア語活用法の授業やこれからのロシア語発展演習などで生かしていきたい。また、今回の研修旅行を機に、他の国にも興味を持つようになった。これからは、ロシアだけではなく他の国にも目を向けて、グローバルな視点を増やしていきたい。

今回、国際交流基金のおかげで学生のうちから、このような貴重な経験を積む事ができた。当心より感謝申し上げます。

1517552 地域文化学科地域社会コース2年 沢田亜美

私は今回のロシア海外研修に行く前にロシア第二の首都と呼ばれるサンクトペテルブルクの成り立ちやペテルブルク出身の作家について調べた。

研修旅行で実際サンクトペテルブルクを訪れた際には、事前学習で調べていたペトロパブロフスク要塞や血の上の救世主教会、カザン聖堂の他、レンブラントやレオナルド・ダ・ヴィンチなど有名な画家の作品を鑑賞することのできるエルミタージュ美術館や動物学博物館、観光地として有名なネフスキー通りなどを訪れた。

事前に学んでいたことではあったが、実際に現地に行くことでしか味わえないその街や建造物などの雰囲気を感じることができた。また、ペトロパブロフスク要塞の中にはサンクトペテルブルクの歴史に関する博物館や要塞として使われていたころの様子を見ることのできる博物館など様々な施設があり、自分の知識を研修旅行以前より深めることができたと感じる。

旅行中には自分が研修旅行前に自分で決定したテーマの他にも、日常的な習慣や風習について学ぶことができた。教会では男性は帽子を脱ぎ、女性はスカーフなどで髪の毛を覆うのが一般的であるということ、地下鉄はジェットンと呼ばれるコインやトロイカというカードを使って乗るということなど日本とは違うことが多くて驚くことも多々あった。

今回の研修旅行では決して普段の授業や教科書、資料からでは学べないような貴重な体験をすることができた。今後のロシア語の授業はもちろん、その他の海外の文化について学ぶ授業や海外文学を学ぶ授業などでも今回の体験を還元していけるといいと思う。

また、今回このような貴重な体験をすることができたのは国際交流基金からの支援があったからであり、深く感謝をするとともに今回の経験を今後の勉学に反映できるよう努力したい。

1517594 地域文化学科人間文化コース2年 八木下雪

2018年9月16日～23日の間、ロシア研修旅行でモスクワとサンクトペテルブルグに訪れた。今回旅行するにあたって、私はサンクトペテルブルグにあるエルミタージュ美術館の作品について事前に調べ、発表を行ってきた。

実際にエルミタージュ美術館を訪れると、その外装、内装の華やかさ、豪華さに圧倒された。作品も一日では回りきれないほどたくさん展示されており、レンブラントやダヴィンチ、モネといった有名な画家たちの絵画を鑑賞することができた。写真で見た絵画と実物の絵画では、迫力や鮮明さが全然違って、改めて何百年も前に描かれた作品を実際に目の前で見ることのできる貴重さ、素晴らしさを実感した。

旅行では、カフェやスーパーなどを訪れ、現地の店員さんと話をする機会もあった。これまではロシア人といえばあまり笑わなく、クールだというイメージが強かったが、実際に挨拶をすると笑いかけてくれたり、レジで分からないことがあったときには丁寧に教えてくれたりなど、とても親切な人が多かった。現地の人と触れあったり、文化を体験したりすることで、それまでのイメージとは違った新たな魅力を発見することができたのはとても良い経験になった。

現代では本やインターネットで、様々な国の文化や生活について情報を集めることができる。しかし、その国の空気を肌で感じ、実際に文化を体験することでしか知りえないことがあるということが分かった。これからは、机上の学習だけではなく、実際に自分の目で見て、体験する学習にも励んでいきたい。

また、今回ロシアへ訪れてさらにロシアの文化や、文学などに興味を持つようになった。今後、ロシアに関する授業では、文学、映画、歴史など様々な観点から照らし合わせて、ロシアの特色について学んでいきたい。

旅行するにあたって、ご援助下さった国際交流基金寄附者の皆様にはこのような貴重な機会を設けていただき、心より感謝申し上げます。



[写真] モスクワ、ブルガーコフの家博物館近くのパトリアルシエ池にて（2018年9月21日）